

北方領土問題を学ぼう

中学生用北方領土学習資料

2026年版



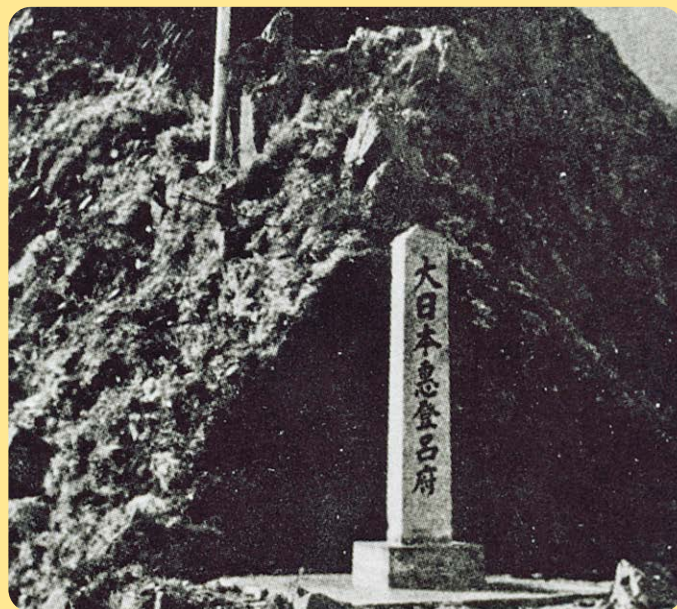
▲こちらから北方領土の動画が見られます



おくしりとう やぎしりとう
奥尻島や焼尻島より
ずっと近いのね。

歯舞群島、色丹島、国後島、択捉島の北方四島(北方領土)は、いまだかつて一度も外国の領土となったことのない日本固有の領土です。

この学習資料は北海道に住む中学生の皆さんが北方領土について正しい知識を身に付けられるように作成しました。北方領土の地理・歴史、返還運動について学び、北方領土問題をみんなで考えましょう。

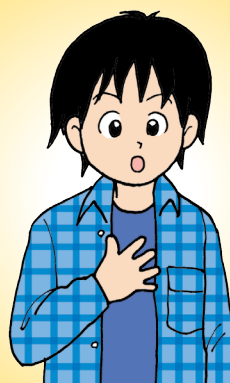


択捉島に建てられた「大日本恵登呂府」の標柱

叫びの像から望む国後島

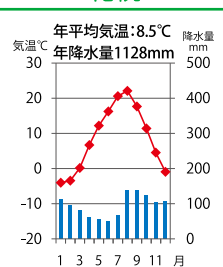
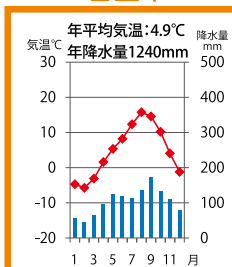


写真提供: 別海町

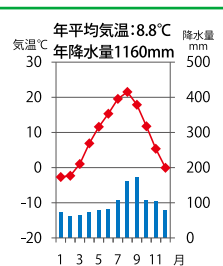
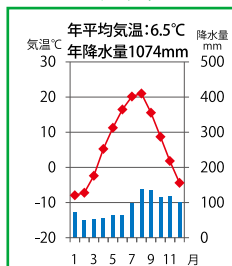


海の向こうに見える島に対して、どのような思いがこめられているのだろう。

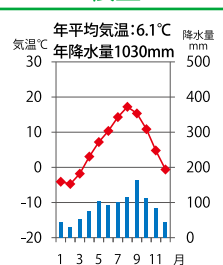
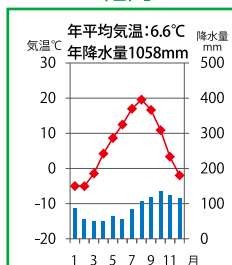
●北方領土の気候を調べよう



同じ北海道でも場所によってかなり違うね。

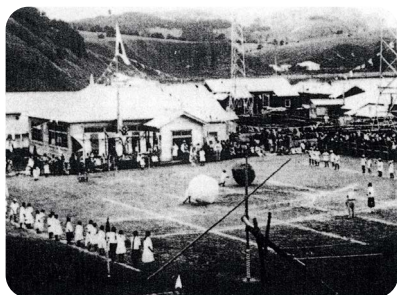


本当だ。古釜布の気候は、どの都市に似ているのかしら。



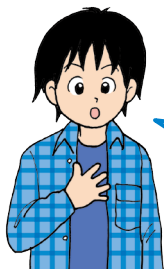
～古釜布はどんな気候だろう～

●北方領土でのかつての暮らしを調べよう



色丹島の運動会(撮影:1939年(昭和14年))

昔は学校などを会場にした巡回映画や、学芸会・運動会などが喜ばれました。年に一度のお祭りは、村中をあげて、大変にぎやかに行われましたよ。また、夏は川や海で釣りをしたり、木の実・草の実を採り、ジャムにしたり、おやつがわりに食べたりしました。冬は吹雪の日が多く、流水の時期には航海ができなくなることがありました。そのため生活に必要な物が運ばれず少なくなったり、新聞や郵便物が途絶えたりしたことがしばしばありました。



運動会やお祭りなど、
今と変わらないところもあるんですね。



冬は寒さが厳しそう
だけど、自然はとても
豊かだったのですね。

国後神社の祭礼
(1939年(昭和14年))



歴史が語る真実 ～領土の画定～

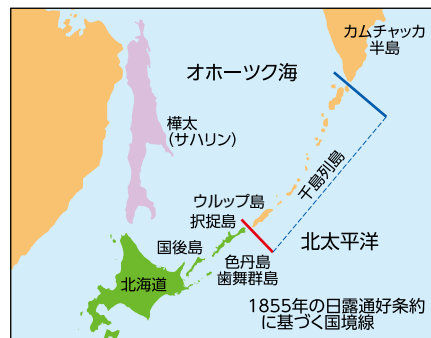
《江戸時代》



江戸幕府撰
正保日本図
(1644年)

1604年(慶長9年)、江戸幕府は松前藩に蝦夷地での交易権を認めました。松前藩は、北方領土や千島列島に住むアイヌの人々とも交流を始めました。

(1) 日露通好条約(1855年)



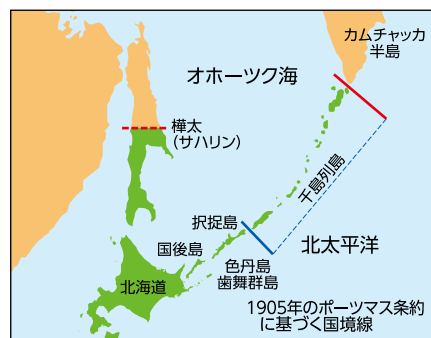
日露の国境は、択捉島とウルップ島の間に決められ、択捉島、国後島、色丹島、歯舞群島は日本の領土として画定されました。また、樺太は両国民の混住の地となりました。

(2) 樺太千島交換条約(1875年)



千島列島をロシアから譲り受けるかわりに、樺太全島を放棄しました。ウルップ島より以北を日本が譲り受けることを定めています。

(3) ポーツマス条約(1905年)



1904年(明治37年)の日露戦争の後、この条約で樺太の北緯50度以南が日本の領土となりました。

《北方領土関連年表—江戸時代からソ連の占拠まで—》

- 1635年(寛永12年) 松前藩、北海道全島及び千島、樺太を含む蝦夷地方の調査を行う。
- 1644年(正保元年) 江戸幕府、「江戸幕府撰正保日本図」を作成し、「クナシリ、エトホロ、ウルフ」などの島名を記載する。
- 1785年(天明5年) 最上徳内、幕府の命により国後島、択捉島へ向かい、調査する。
- 1798年(寛政10年) 近藤重蔵、最上徳内、択捉島に渡り「大日本恵登呂府」の標柱を建てる。
- 1799年(寛政11年) 高田屋嘉兵衛、国後・択捉島間に航路を開く。
- 1800年(寛政12年) 近藤重蔵、高田屋嘉兵衛らを択捉島に派遣、漁場を開き、行政府をおく。
- 1808年(文化5年) 間宮林蔵、樺太を探検する。
- 1855年(安政元年) 日露通好条約を結ぶ。
- 1875年(明治8年) 樺太千島交換条約を結ぶ。
- 1905年(明治38年) ポーツマス条約を結ぶ。
- 1925年(大正14年) 日ソ基本条約に調印。(日ソ国交樹立)
- 1945年(昭和20年) 日本がポツダム宣言を受諾、終戦。その後ソ連が北方四島を不法占拠する。
- 1946年(昭和21年) ソ連が千島列島ならびに南樺太の領有を宣言する。
ソ連が千島列島・樺太・色丹島・歯舞諸島(現、歯舞群島)をソ連に編入することを宣言する。

第二次世界大戦終結の時期に何が起きたのか？

(1)大西洋憲章(1941年8月)

米国と英国の両国は大西洋憲章で、第二次世界大戦での領土拡張を求めない方針を明らかにし、ソ連は同年9月にこの憲章への参加を表明しました。

(2)カイロ宣言(1943年11月)

米国、英国、中華民国は、大西洋憲章の方針を確認し、日本が第一次世界大戦により得た太平洋の諸島、満州、台湾及び澎湖島、朝鮮、それに「暴力および貪欲により日本国が略取した」他のすべての地域から追い出さなければならないと宣言しました。

しかし、千島列島は、樺太千島交換条約によって平和的手段で日本が譲り受けたもので、「暴力および貪欲」により略取された地域ではありません。ましてや、日本固有の領土である歯舞群島、色丹島、国後島及び択捉島は、カイロ宣言に述べられた「日本国の略取したる地域」にあたりません。

(3)ヤルタ協定(1945年2月)

米国、英国、ソ連がソ連領ヤルタで取り決めた秘密協定で、「ソ連の日本宣戦。樺太南部と隣接する諸島のソ連への返還、千島列島のソ連への引き渡し。」という内容でした。

ロシアは、この協定を北方領土をロシア領とする根拠の一つとしています。

しかし、日本はこの協定の当事者でないため、これにしばられません。また、北方四島は千島列島ではなく、北海道の一部です。戦後、米国はこの協定の法的効果を否定しています。

(4)ポツダム宣言(1945年7月)

米国、英国、中華民国は、この宣言の中で、カイロ宣言の条項は履行されなければならないと、また、日本の主権は、本州、北海道、九州及び四国並びに連合国の決定する諸島に限らなければならないとしました。(ソ連は、8月8日に参加)

(5)ソ連軍の侵攻(1945年8月～)

日ソ中立条約を無視して1945年8月9日に対日参戦したソ連は、日本が降伏した(ポツダム宣言受諾)後も攻撃を続け、同8月28日から9月5日までの間に、北方四島を不法占拠しました。

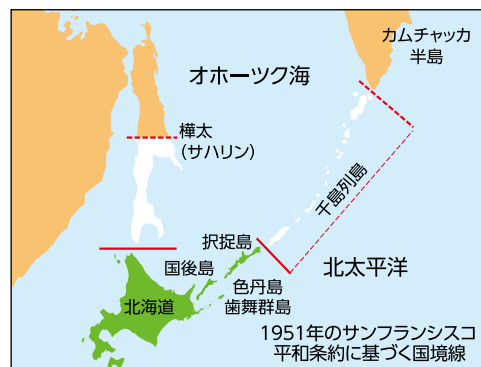
これら四島の占領の際、日本軍は抵抗せず、占領は無血で行われました。

各島を占領したソ連軍は、電信、電話などの通信施設を破壊・強奪し、さらに船の航行を禁止して島民の自由を束縛し、本土との連絡を遮断しました。

(6)サンフランシスコ平和条約(1951年9月)

日本は、千島列島・南樺太の権利、権原及び請求権を放棄しました。

しかし、放棄した千島列島には択捉島、国後島、色丹島、歯舞群島の北方領土は含まれていません。なお、平和条約では放棄した地域が最終的にどこに帰属するかについては、何も決められていません。



日本が放棄した島々に北方四島は含まれないね。



島からの引き揚げ —元島民のお話—



昭和20年9月1日の朝、何の前ぶれもなく、色丹島斜古丹湾に、真っ黒い軍艦2隻が侵入してきました。日本人よりはるかに大きいソ連兵が、銃剣やライフルを構え、上陸して来たのです。民家を襲い、銃剣を突きつけ家の中を探し、金品を奪ったソ連兵も多くいました。

やがて、ソ連軍は民家を次々と没収し始めました。追い出された人々は、物置や知人の家に間借りをして生活しました。毎日がソ連軍の監視下にあり、恐ろしくて外にも出られない日々が続き、島を脱出する人々が増えました。監視の目を逃れるため、暗闇や海の荒れている日を選んで、エンジン音と灯火を消した小さな船に家族や知人を乗せた、死を覚悟した上での脱出でした。

島に残った島民は、ソ連人と混住生活をするようになりました。言葉には言い表すことのできない、先の見えない不安な日々が続きました。昭和22年の秋、突然ソ連軍から日本に帰すとの命令が出ました。1週間ほどで船が来て、自分で持てるだけの荷物をもち、そして島を追い出されました。

私たちは、トイレの汚水が船内に流れる不衛生な船で樺太へと送られました。到着すると、真岡の収容所へ入れられました。厳寒の地で、食糧不足により栄養状態は劣悪でした。薬もなく、医者もいない。体を壊し、死亡する人も多くいました。死と背中合わせの日々をどうにか乗り切り、その後引き揚げ船で函館にたどり着くことができました。



元島民の方は、どんな気持ちでこのお話をしてくれたのだろうね。

●元島民の数 (世帯数単位:世帯、その他単位:人)

	1945年(昭和20年)8月15日現在		2025年(令和7年)3月31日現在		
区分	世帯数	人口	元居住者	子ども等	合計
歯舞群島	852	5,281	1,570	8,960	10,530
色丹島	206	1,038	272	1,797	2,069
国後島	1,327	7,364	2,028	13,297	15,325
択捉島	739	3,608	1,083	5,649	6,732
合計	3,124	17,291	4,953	29,703	34,656

注1)「元居住者」とは、昭和20年8月15日現在において6か月以上北方四島で暮らしていた人をいいます。

注2)「子ども等」の数には、1945年(昭和20年)8月15日よりあとに北方四島で生まれた人(305人)が含まれています。

不法占拠されていなかったら、多くの人たちが北方領土に住んでいられたはずなんだね。



北方領土の今 ～戦後から現在～

●北方領土返還要求運動とは

北方四島は、これまで一度も外国の領土となったことがなく、国際的な取り決めから見ても、日本に帰属すべき領土です。しかし現在、ロシアに不法に占拠されているこの北方領土問題の解決のためには、ロシアとの外交交渉を粘り強く続けていく必要がありますが、この交渉を後押しする最大の力は、北方領土の返還を求める一致した国民の思いです。

●返還要求運動の始まり

北方領土返還要求運動は、終戦の年(昭和20年)の12月1日に当時の安藤石典根室町長が、連合国最高司令官マッカーサー元帥に対し、陳情書を提出したことが始まりとされています。終戦直後に北方領土の元住民をはじめ、四島と隣接する根室の人々によってあげられた領土返還要求の声は、北海道全域、さらに全国各地へと展開していきました。

●署名運動

北方領土問題への国民の理解と関心を高めるため、「北方領土の日(2月7日)」と「北方領土返還要求運動強調月間(8月)」が設定されています。また、国民の意志を直接表明する手段として、北方領土の返還を求める署名活動が全国で行われています。集められた署名は、毎年、国会に請願として提出されています。(2025年(令和7年)3月末94,556,080名)

●墓参・自由訪問

北方領土への墓参は、引揚者に対する人道的な見地により1964(昭和39)年から実施しています。

その後たびたび中断されましたが、1986年(昭和61年)8月、11年ぶりに歯舞群島及び色丹島での墓参が実施されました。その後、1989年(平成元年)には国後島、1990年(平成2年)からは択捉島への墓参も開始され、現在は四島すべてにおいて墓参を実施しています。

また、2017年(平成29年)からは、航空機を利用した墓参も実施されています。

このほか、1999年(平成11年)からは元島民とその家族が故郷を訪れる北方四島への自由訪問が行われています。



2015年(平成27年)墓参(国後島:古丹消墓地)



島をおわけて43年目の平成2年に初めて択捉島のお墓参りにいける事になりました。はりきって行ったふるさとの村は、建物もなくハマナスが咲いているばかりでした。お墓も見あらず、涙も出ないほどがっかりしました。(元島民のお話)

ビザなし交流はなにをめざしているのかな？



2010年(平成22年)ビザなし交流(青少年訪問:国後島) スポーツ交流・お別れ



●北方四島交流(ビザなし交流)

北方四島交流(ビザなし交流)とは、1991年(平成3年)に日ロ両国間で定められた、日本国民と北方四島在住ロシア人との間の旅券(パスポート)・査証(ビザ)なしによる相互訪問の枠組みによる交流です。

この枠組みにより行われている北方四島交流事業(ビザなし交流)は、「領土問題解決までの間、相互訪問により、相互理解の増進を図り、領土問題の解決に寄与すること」を目的として、1992年(平成4年)から訪問事業と受入事業が行われています。

この交流により、日ロ両国民の理解と友好が深まり、北方領土問題の解決につながることが期待されています。

※2020年(令和2年)以降、新型コロナウイルス感染症の影響やロシアによるウクライナ侵略を受けた日露関係の悪化により、北方四島での墓参や自由訪問、ビザなし交流を行うことができていません。

●北方領土を巡る最近の動き

2022年(令和4年)2月のウクライナ侵略の後、ロシアは平和条約交渉を継続しないことや四島交流及び自由訪問に係る合意の効力停止を一方的に発表しました。日本政府は、この措置を極めて不当で断じて受け入れられないとして、ロシア側に強く抗議を行っています。

政府としては、「北方領土問題を解決し、平和条約を締結するとの方針を堅持していく」、また、「北方四島交流等事業の再開は日露関係における最優先事項の一つであり、特に北方墓参に重点を置いて事業の再開を引き続き強く求めていく」としています。

北方領土返還交渉のあゆみ

1956年

日ソ共同宣言



平和条約に代えて戦争状態の終了、外交関係の回復等を定めた日ソ共同宣言に署名。平和条約締結交渉の継続に同意。歯舞群島及び色丹島については、平和条約の締結後に日本に引き渡されることに同意しました。この日ソ共同宣言により日ソ間の国交は回復されました。

ソ連時代に引き渡すことに同意しているんだね。



日ソ共同宣言署名

1991年

日ソ共同声明

ソ連の指導者として初めて来日したゴルバチョフ大統領は、海部首相との共同声明において、四島の名前を具体的に書き、領土画定の問題の存在を公式に認めました。

1993年

東京宣言

細川首相とエリツィン大統領の間で、領土問題を、北方四島の島名を列挙して、その帰属に関する問題と位置づけ、①歴史的・法的事実に立脚し、②両国の間で合意の上作成された諸文書及び③法と正義の原則を基礎として解決するとの明確な交渉指針が示されました。

1997年

クラスノヤルスク合意

橋本首相とエリツィン大統領は、東京宣言に基づき、2000年(平成12年)までに平和条約を締結するよう全力を尽くすことで合意しました。

1998年

川奈合意

橋本首相とエリツィン大統領は、平和条約が、東京宣言に基づき四島の帰属の問題を解決することを内容とし、21世紀に向けての日口の友好協力に関する原則等を盛り込むものとなるべきことで一致しました。

モスクワ宣言

小渕首相とエリツィン大統領は、東京宣言並びにクラスノヤルスク合意及び川奈合意を再確認するとともに、国境画定委員会及び共同経済活動委員会を設置することで一致しました。

2001年

イルクーツク声明

森首相とプーチン大統領は、日ソ共同宣言を交渉プロセスの出発点と位置づけ、その上で、東京宣言に基づいて四島の帰属の問題を解決して平和条約を締結するとの日口共通の認識を再確認しました。

2003年

日口行動計画

小泉首相とプーチン大統領は、共同声明において、両首脳の間で、四島の帰属の問題を解決し、平和条約を可能な限り早期に締結し、両国関係を完全に正常化すべきとの「決意」を確認し、「日露行動計画」において、日ソ共同宣言、東京宣言、イルクーツク声明の3文書が具体的に列挙され、その他の諸合意と併せ、今後の平和条約交渉の基礎とされました。

2013年

日口首脳会談

安倍首相とプーチン大統領は、共同声明において、戦後67年を経て日口間で平和条約が存在しないことは異常であるとの認識を共有し、双方の立場の隔たりを克服して、2003年(平成15年)の共同声明及び行動計画において解決すべきことが確認されたその問題(四島の帰属の問題)を最終的に解決することにより平和条約を締結するとの決意を表明しました。また、平和条約問題の双方に受入れ可能な解決策を作成する交渉を加速化させるとの指示を両国外務省に与えることで一致しました。

2016年

日口首脳会談

安倍首相とプーチン大統領は、5月の会談で、双方に受入れ可能な解決策の作成に向け、今までの発想にとらわれない「新しいアプローチ」で、交渉を精力的に進めていくとの認識を共有しました。また、12月にプーチン大統領が訪日した際の会談では、平和条約問題を解決するとの両首脳自身の真摯な決意が示され、北方四島において特別な制度の下で共同経済活動を行うための協議の開始に合意するとともに、元島民の方々による墓参等のための手続きを改善することで一致しました。

2017年

日口首脳会談

安倍首相とプーチン大統領は前年12月の首脳間の合意事項の具体的な進展として、次の3点で一致しました。
(1)航空機を利用した元島民による特別墓参の実現。
(2)共同経済活動に関する四島への官民現地調査団の派遣。
(3)同年8月末の歯舞群島への墓参の際における追加的な出入域ポイントの設置。

2018年

日口首脳会談

安倍首相とプーチン大統領は、2016年(平成28年)12月の首脳会談以降、新しいアプローチの下での協力の積み重ねにより培われた信頼の上に、「1956年宣言を基礎として平和条約交渉を加速させる」ことで合意しました。

2019年

日口首脳会談

安倍首相とプーチン大統領は、1956年宣言を基礎として平和条約交渉を加速させるとの決意の下で、引き続き交渉を進めていくことで一致しました。
北方四島における共同経済活動については、パイロット・プロジェクトを実施することで一致し、8月から9月に双方のゴミ処理専門家の往来が行われるとともに、10月から11月にかけて日本人観光客による観光パイロットツアーが実施されました。さらに、元島民への人道的支援として、船舶を使用した墓参における出入域地点の追加や3年連続となる航空機墓参が実施されました。

2020年

日口首脳電話会談

菅首相とプーチン大統領は、2018年(平成30年)のシンガポールでの首脳会談で「1956年宣言を基礎として平和条約交渉を加速させる」ことで合意したことを改めて確認しました。

2021年

日口首脳電話会談

岸田首相とプーチン大統領は、2018年(平成30年)のシンガポールでの合意を含め、これまでの両国間の諸合意を踏まえて、しっかりと平和条約交渉に取り組んでいくことを確認しました。

学習のまとめ



学習を振り返って、空欄を埋めてみましょう。

- ①北方四島とは、島、国後島、島、歯舞群島の四島。
- ②納沙布岬から貝殻島までの距離は約km。
- ③北方領土の面積は、およそkm²で、福岡県とほぼ同じ。
- ④北方領土の近海ではなどの魚介類が豊富に獲れる。
- ⑤江戸幕府は年に、「クナシリ」「エトホロ」などの地名を記載した日本地図を作った。
- ⑥年、幕府から派遣された近藤重蔵、高田屋嘉兵衛らは、択捉島に漁場を開き、行政府を置いた。
- ⑦1855年の条約で、択捉島とウルップ島の間をロシアとの国境とした。
- ⑧1945年8月、ソ連は条約を無視して日本に宣戦し、日本がポツダム宣言を受諾した後に北方四島を占領した。
- ⑨1956年、宣言で、平和条約締結後に、の二島の日本への引き渡しに同意されている。
- ⑩年4月の日ソ共同声明で、ゴルバチョフ大統領は領土問題の存在を公式に認めた。
- ⑪北方領土が日本の領土であることを主張しながら、相互理解を進めるため1992年から「北方四島交流」がパスポートやなしで行われている。
- ⑫北方領土返還要求の署名は2025年3月末で万人を超えている。

北方領土についての感想や意見を書きましょう。



第24回（2025年度）「北方領土の日」ポスターコンテスト
最優秀賞（中学校）帯広市立翔陽中学校 村山 夕樹乃さんの作品

北方領土や返還運動について、もっと知りたいときは下記のHPを参考にしてください。
さらに詳しく記述した「中学生の読みもの」も載っています。



発行：公益社団法人北方領土復帰期成同盟（略称：北方同盟）
〒060-0001
札幌市中央区北1条西3丁目3番地 敷島プラザビル3F
TEL 011-205-6500
FAX 011-205-6501
HP：https://www.hoppou-d.or.jp
E-mail：hoppou-d@isis.ocn.ne.jp



関係団体

- 外務省 ○内閣府北方対策本部 ○北海道（北方領土対策本部）
- 1市4町（根室市、別海町、中標津町、標津町、羅臼町）
- （独）北方領土問題対策協会 ○（公社）千島歯舞諸島居住者連盟
- （公社）北方領土復帰期成同盟